

様式

技術名称	地下空洞、空間の充填技術 「ジュウテンバッグ工法」	技術の分類	施工	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	申請作業中
会社名等	徳倉建設株式会社	担当者	和泉 彰彦	連絡先	052-951-2020
技術の概要	本技術は、護岸・岸壁や道路等に発生した地下空洞を、袋体(ジュウテンバッグ)とLSS流動化処理土で補強する技術である。従来はLSS等充填材をそのまま空洞へ充填していたが、袋体(ジュウテンバッグ)を活用することで、周辺に流出することないため、空洞化の原因を補修しなくても空洞を補修することができる。改変面積が少なくて済むことから、施工が容易で、工程が短く、安全に施工ができる。本技術の活用により、品質、安全性、施工性、環境への向上が図れる。	対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 国土交通省職員 <input checked="" type="checkbox"/> 港湾管理者 <input checked="" type="checkbox"/> 一般(施工業者・コンサルタント等含む)		
		添付資料	パンフの有無	有	
			その他の資料	カタログ	
技術の特徴	(メリット) 1. 袋体(ジュウテンバッグ)を使用することで、外部に充填材が流出することなく、再空洞化の懸念がないため品質が向上する。また、海洋に充填材が流出するなど、周辺に与える影響がない。 2. ジュウテンバッグの素材は5%の伸び率があるため、充填圧力で空洞内に追従し、不定形の空洞を確実に充填することができるため、品質が向上する。 3. 袋体(ジュウテンバッグ)を使用することで、充填材外部流出の懸念がないため、リスク回避ができ、工事を中止することがないため、工程が安定する。 4. 大型機械を使用することがないため、重機災害や陥没事故の可能性がなくなり、安全が向上する。 (デメリット) 1. 空洞内部の状況は、直接目視等で行えないため、空洞カメラ等で調査する必要がある。 2. 使用する袋体の仕様(大きさ)を決定するため、空洞内の形状と容積を調査する必要がある。 (実証実験の実施) 1. 袋体を利用したLSSによる護岸空洞補修実証実験について(令和元年10月実施) 2. 袋体を利用したLSSによる護岸空洞補修実証実験(2回目)について(令和2年2月実施)	その他	<p>図-1 ジュウテンバッグ工法施工概要</p>		
			<p>図-2 ジュウテンバッグ工法作業フロー</p>		

※複数の技術について発表をご希望の場合は技術ごとに記載願います。